

## 令和元年度 学校関係者評価報告書

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 30 年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

### 1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局  
(委員) 草間 祐輔 住友化学園芸株式会社 普及部長  
大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会会員  
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師  
桃木 好之 本校卒業生  
株式会社花弘 制作デザイン マネージャー  
高野真樹子 本校卒業生  
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師  
(事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長  
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長  
水本寿美江 同 教務部長  
小池 智子 同 フラワーデザインコース長  
永井 建 同 総務部長

2. 実施日時 令和元年 10 月 3 日(木) 14:00~16:30 於. 4 階教室

### 3. 平成 30 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

#### 1) 教育理念・目標

- ・現状の通り、理念・目的・育成人材像は外部に発信し続けることとともに、学校の将来構想をより明確にし、その実現に努めていくこと
- ・今年度入学生よりフラワーデザインコース・ブライダルフラワーコースの 2 コース体制となったことから、今まで以上にそれぞれのコース内容を分かりやすく伝えるよう工夫をすること

#### 2) 学校運営

- ・運営方針や事業計画は定められているので、それにそった運営をすること
- ・業務の効率化を図るために、情報システムの構築化を進めていくこと
- ・運営方針や事業計画について、各講師の方々にもご理解いただけるよう報告を行うことで、より一貫性を持った事業展開を進めていくこと

#### 3) 教育活動

- ・今年度入学生よりフラワーデザインコース・ブライダルフラワーコースの 2 コース体制となったことで、就職に関してなど学生の意識に変化があるかどうか、注視していくこと

- ・前回からの課題である儒号評価の実施。評価体制が未だに実施されていない。どのように実施するかは講師・学生双方に対する十分な配慮が必要で難しい面もあるが、教育内容の質を上げるために今後も模索を続ける必要がある
- ・学生のコミュニケーション能力向上のためには、学生に自信を持たせることが重要。お客様のニーズに対して自分の考えを伝えられる力、自ら発信できる主体性を身に付けさせるよう補助し、学生の学風成果を認め、褒めて自信を持たせることを根気よく続けていくことを指導者に望む

#### 4) 教育成果

- ・花き・園芸業界で必要とされる資格取得については、自らの実力の証明であり、就職後においては資格を有していることが顧客からの信頼に繋がることから、今後も学生には積極的に取得を勧めていくこと

#### 5) 学生支援

- ・発達障害がある学生や人間関係が上手くいかない学生のために、相談できる機関を確保してほしい
- ・卒業後のフォローや卒業生への支援体制に、もっと力を入れてほしい。卒業生の毛を拾い上げて、在校生支援に繋げてほしい
- ・経済的に困窮している学生の支援をするために、高等教育無償化認定校となり体制を強化してほしい

#### 6) 教育環境

経営上可能な範囲で整備を続けていくべきであろう

#### 7) 学生の募集と受け入れ

学生募集活動は問題なく行われている

#### 8) 財務

財務情報の公開は適切に行われている

#### 9) 法令等の遵守

特に問題ないと思われるが、できる限り早期に自己点検・評価の結果を公開して、積極的に問題点の改善につとめてほしい

#### 10) 社会貢献

- ・花卉・園芸に関わるイベントやボランティア活動に関する情報を積極的に得るように努めてほしい。ただし、それが学校として取り組める内容かどうかを精査する必要がある。
- ・学校で企画内容を考えてイベントに持ち込むことも一策である
- ・授業内で制作したものを、高齢者施設や幼稚園等は無償提供する方法を考えてみてほしい
- ・学生たちが関わったことに対して人に喜んでもらえる実体験は、その後の学習に対するモチベーションアップにつながるので、ぜひ進めてほしい

### 3. 総評

上記 10 項目について、東京テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、教育活動など一部の項目については、さらなるレベルアップを図るための意見、提案が多く出されたことから、次年度以降一層の注力を望みます。

以上